

# ソートの計算時間

ソートの計算時間を測ってみましょう。

# INIAD

#### 時間の測り方

- 前回までの講義で、%%time を使って時間を計測しましたが、他にもいくつかの時間の計測方法があります
- ここでは、次の手順も覚えましょう
  - %time
  - %%time
  - %timeit
  - %%timeit



#### %%time \( \alpha \) %time

- %%time:これまで学習したように、をセルの冒頭に追加すると、そのセル全体の実行時間を計測することができます
- %time:行の先頭に追加すると、その行の実行時間を計測することができます
- 以下を試してみましょう

```
*%time
for i in range(10):
    sorted([5, 2, 3, 4, 1, 9, 10, 8, 7, 6])

for i in range(10):
    %time sorted([5, 2, 3, 4, 1, 9, 10, 8, 7, 6])

計測対象
```



#### %%timeit & %timeit

- time を timeit に変更すると、複数回繰り返したときの平均時間を計測することができます
  - %%timeit と %timeit の違いは、time の場合と同様です
- 以下を試してみましょう

```
*%timeit
for i in range(10):
    sorted([5, 2, 3, 4, 1, 9, 10, 8, 7, 6])

for i in range(10):
    %timeit sorted([5, 2, 3, 4, 1, 9, 10, 8, 7, 6])
    計測対象
```



- ここでは、以前と同様に random モジュールを使って、一定数の長い リストを作ることを考えます
  - ullet random.sample 関数で、引数で与えた範囲から、パラメータ ullet の数をランダムに選びます
- 以下の例では、0以上 1000000 未満の値からなる、長さ10のリストを作っています

```
import random
```

```
target = random.sample(range(1000000), 10)
target
```

[881705, 279847, 254231, 573174, 99131, 567593, 501560, 761901, 593533, 287058]



- 先ほど学習した %timeit を用いて、長さ1000のリストのソートにかかる時間を計測してみます
- 以下のようにすることで、リストを作る時間は除外し、ソート にかかる時間のみを計測できます

```
target = random.sample(range(10000000), 1000)
%timeit sorted(target)
```



 同じ手順で、リストの長さを、1000 から 10000 まで 1000 刻 みで増やして、時間を計測してみましょう

```
for i in range(1, 11):
    target = random.sample(range(10000000), i * 1000)
%timeit sorted(target)
```



- その結果を matplotplib を使ってプロットしてみます
  - 計測時間は、自分の計測結果を入れてください

```
import matplotlib.pyplot as plt
import math

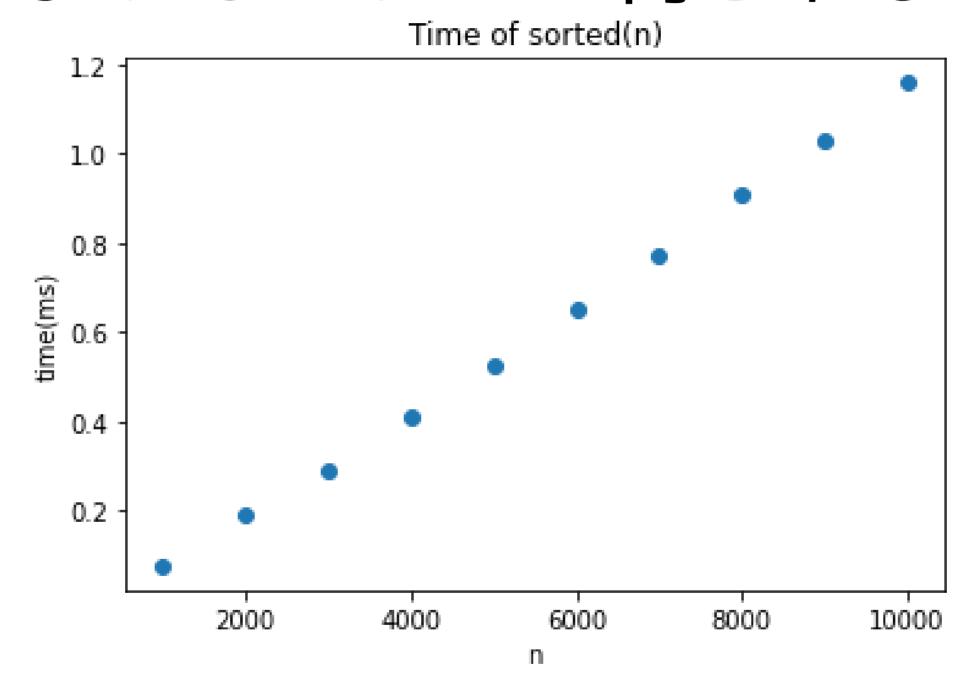
xs = [1000, 2000, 3000, 4000, 5000, 6000, 7000, 8000, 9000, 10000]
ys = [0.0751, 0.188, 0.290, 0.408, 0.524, 0.653, 0.770, 0.907, 1.03, 1.16]

plt.plot(xs, ys, 'o')
plt.xlabel('n')
plt.ylabel('time(ms)')
plt.title('Time of sorted(n)')
plt.show()
```



### 以下のようになりましたか?

以下のようなグラフが得られましたか?



一見直線的なグラフに見えますが、理論的には少し違います

## INIAD

#### ソートの計算量

- 実は、Pythonのソートの平均計算量は: 0(n log n)
  - Pythonのソートは「ティムソート」というアルゴリズムを採用しているようです
  - このアルゴリズムに限らず、世の中の実用的なソートアルゴリズムの多くは、このオーダーになります
- 線形よりも若干上に反った増え方になります(準線形時間)

